

採点欄

令和八年度入学試験

国語解答紙(その2)

問一	① 打消	② 意志	③ 過去推量	
問二	ア あか石	イ 力		
問三	a 小伝次(若君)は出家なさっているだろう			
	b 私(捨石丸)は小伝次のもとへ行って討たれよう			
問四	(1) 山道を難路にしている赤い大岩を切り崩して穴をあけ道を通すこと。			
	(2) 難路を切り開いて後世の人のために尽くすことが、父の供養になると考えたから。			
問五	捨石丸の首をとろうとしてやってきた小伝次が捨石丸の行動に心打たれ、仇討の心を捨て協力すると申し出たばかりか、協力の後は仏道修行に専念するとの決意を口にしたから。			
問六	かつての小伝次は弱々しく、自分を討ち取ることもできまいと思っていたが、目前で二十人がかりで持ち上げる巨大な石を鞠のように軽々と蹴って見せたから。			
問七	自分を討つことなど到底できまいと侮っていた小伝次が、修行の末、見違える力と技を身に付けたのを目の当たりにして、自身の慢心を恥ずかしく思う気持ち。			
問一	① と	② なかれ	③ それ	④ およそ
問二	臣下たちはみな張儀に賛同して意見を述べ、斉・荆の国を攻めることに利点があると考え、恵施の肩を持って意見を述べる者はいなかった。			
問三	斉・荆の国を攻めるといふ点で国中の臣下の意見が一致しているから。			
問四	察せざるべからざるなり			
問五	国家の方針について人と相談するのは、何が正しいか疑わしいからであり、本当は可と不可は半々である。それなのに臣下が皆可とするのは、王は半分の臣下の信頼を失っていると同じで、そのうち王は臣下に脅かされるようになるということ。			

氏名

受験番号

合計点

採
点
欄

令和八年度入学試験
国語 解答紙(その1)

問一	ア	掲	イ	摂理	ウ	乱獲	エ	麓
問二	(1)	自己と世界とを接続する回路としてもっともふさわしいもの(27字)						
問三	(2)	水、啓蒙思想、生命						
問四	庭を作る際に、自然物の多様な展開を効果的に受け取れるように、庭の中に人間の意識からは生まれることのないアルゴリズムに従った移動と変化をもたらすものをあえて取り入れ、庭の生態系の変化に活性を促すこと。							
問五	ありのままの自然に人間が手を加え、関与することで、自己と世界、私と公を結ぶ場所として維持し続けること。							
問六	家屋の前に設けられた庭とも農場ともつかない「囲われたもの」であり、本来その土地には根づいていなかった植物を播いて、それらを育成することで、ありのままの自然に多様な変化をもたらすようなところだった。							
問七	人間の影響によって破壊された、もはや故郷を懐かしむような気持ちで求めるしかない無垢なものではなく、人間の営みによって拡散し、混じりあい、進化し、新しい共生を生み出しつつ前へと広がってゆくものだ、ということ。							
	或る地域への外国人の流入は、その地域の人々に刺激を与え、既存の制度や価値観に異なる視点を持ち込むことで新しい地域のビジョンを創出する。外国人はいわば庭師であり、既存の制度や価値観にできるだけ合わせつつ、新しい共生と共進化を生み出す点で庭づくりと共通している。							

氏名

受験番号

合計点